

005 C a c c o

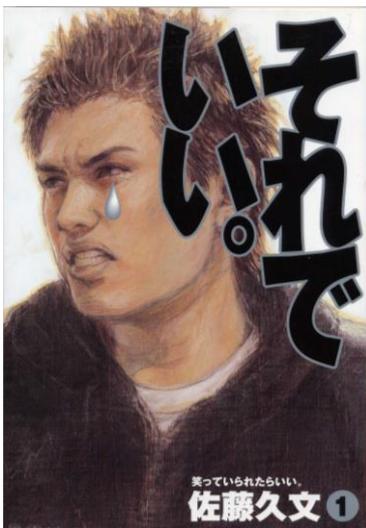
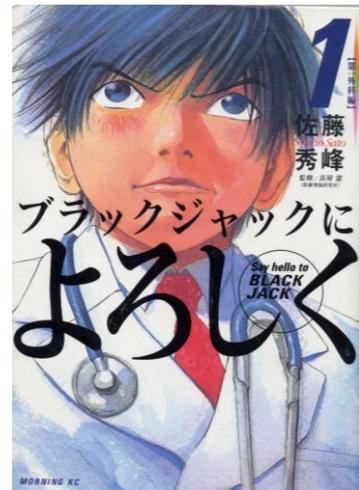
寒さが厳しくなってきました。しかし！この日のために蓄えた皮下脂肪。緊張感のある冬は大好きです。

今年は漱石を読む年にしたいと前号では豪語しましたが、人と人の関わりというのがいかに難しいか、なんてことに思い耽り、本を読む気分には全くなれずに毎日を過ごしてしまいました(〜;)。活字を読むってのも集中力が必要。違うことに捕われて読むハシから忘れていくんじゃ本から遠ざかるのも当たり前。でもね、漫画は読めるんです。へへ。ただ単に細かい文字を読みたくないだけじゃんって批判はさておき、軽い気持ちで入れてすごい感動を得ることもあります。読書リストに漫画なんて、って批判もこれまた置いて、今月の読書リストは漫画紹介ってことで。

ブラックジャックによろしく 佐藤秀峰 ①～⑦巻 以下続く

週刊モーニング掲載

妻夫木君主演でテレビドラマ化されたり、立花隆氏が医学生との対話のテーマとして取り上げたりと、巷でもちょっと話題の漫画。超一流の誉れ高い永禄大学付属病院。その研修医斉藤英二郎が医療の矛盾に悩みつつ理想を貫いていくというストーリー。あちこちで問題を起こして回る斉藤だが、彼の役割は、読者との同化ではないのかな。たぶん読者は斉藤に感情移入して漫画を読む。だからキャラの性格がわかりやすく誰でもがすんなり〈斉藤〉になれるように仕組まれている。血気盛んで理想に燃え、それゆえに悩む斉藤の姿を見て、読者はこういうふうにしたかったという気持ちを彼と重ねるのではないだろうか。とても面白い。泣けます。



それでいい 佐藤久文 ①～②刊 以下たぶん続く

週刊ヤングジャンプ連載

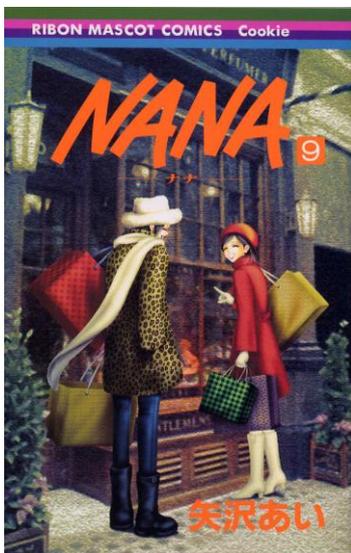
「ヤンジャンにこんなに泣ける漫画があったのか！！」が帯の謳い文句。1話4ページで綴る短編集。短編のタイトルは「笑えばいい」「一緒がいい」などすべてを肯定するものが付けられている。4ページで読者にある程度の読後の満足感を得られるように作るのはさぞかし大変だろう。15秒で印象に残るメロディが必要になるCM曲みたいなもんかしら。よくできてます。

リアル 井上健彦 ①～③巻 以下続く

週刊ヤングジャンプに不定期連載—

だから話が全然進まない・・・

障害者バスケットチームタイガースのエースであり、勝利にこだわるがゆえに、はみ出しものである清春。高校を中退してもバスケットに大いに未練がある野宮。盗んだ自転車で逃げる途中の交通事故で下半身不随となる久信。まだ物語は導入部という感じ。三人のリアルな生き様が魅力。作者は「バガボンド」の井上健彦。バスケット漫画だから「スラムダンク」との共通項が多いのかもしれないが、スラムダンクはギャグと本筋のギャップに付いていけずどうしても読めない(～)



NANA 矢沢あい ①～⑨巻 以下続く

月刊クッキー連載

最初の頃のギャグタッチはすっかり影をひそめ、どシリアス漫画になってるかも。「ブラスト」「トラネス」のふたつのパンクバンドを中心にした人間関係や思惑、恋心。それにしても奈々(愛称ハチ子)って女の子はめちゃめちゃかわいいわけなんだろうな～ドラマ化したらあややの役どころかしら。我が家の息子はボーカリストナナは椎名林檎で決まりって言うけど。最近「あの漫画をドラマ化したら？」ごっこにはまっていてエバンゲリオンのは絶対上戸彩だって息子は言うけど、わたしは平川地一丁目の弟君なんかはどうかと思うんだよね(^.^♪。

バルバラ異界 萩尾望都 ①巻 以下続く

月刊プチフラワー連載

西暦2052年。他人の夢に入り込むことのできる「夢先案内人」度会時夫は7年間眠り続ける十条青羽の夢に入り込む。彼女が夢で暮らす島バルバラは、度会の息子キリヤが作った架空の島だった。多彩な登場人物たちは大きな力に呼ばれるように〈バルバラ〉をキーワードに集結してくる。映画を思わせる多様に絡まる人間関係。萩尾望都はその繊細なタッチでひとりひとりの個性を描き分ける。壮大で複雑なストーリーでありながら、切ない思いが全体を包んでいる。なぜこんなに素晴らしい漫画が描けるんだろう～～うるうる。





カンナさ～ん！ 深谷かほる ①～⑤巻 以下続く

月刊YOU不定期連載

いつもパワフルでホットなママ、カンナさん。自称超セクスイ～。夫・礼と息子麗音の三人暮らし。カンナさんの理想論はときに周りの反感も買うが、持ち前のガッツで懸命に理想に近づこうとする。もし全てをなくすときがきてもタフでいよう、セクスイ～でいよう、ハッピーでいようというカンナさんの考え方は潔くすがすがしい。もともと三人姉妹の三女が主役の別の漫画から、次女カンナさんのキャラが受け独立して主役の座を獲得。とても面白い。

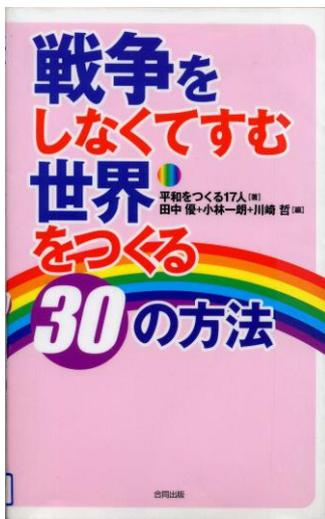
ここからは漫画じゃないですよ～。

戦争をしなくてすむ世界をつくる

30の方法

平和をつくる17人[著]

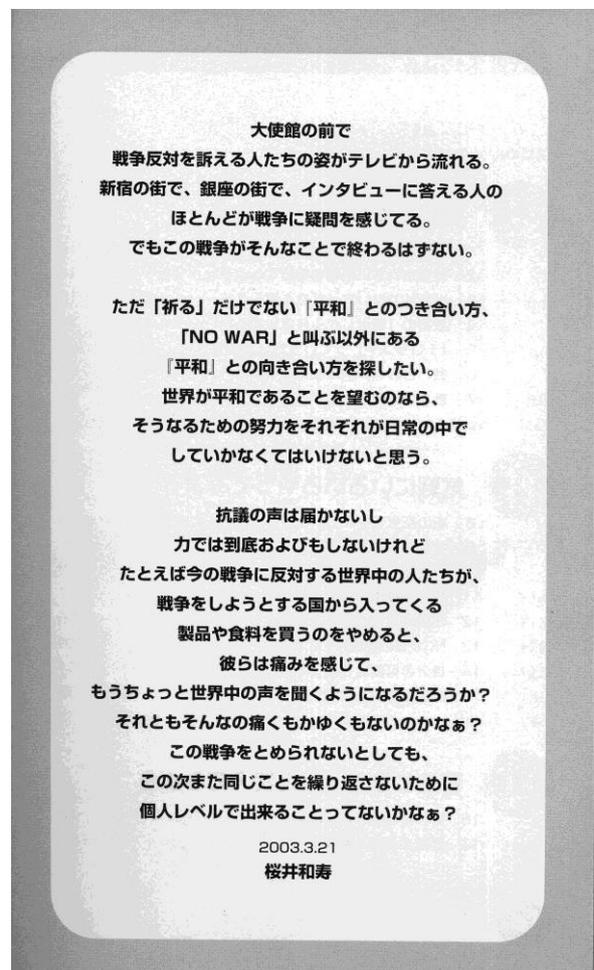
田中優+小林一朗+川崎哲[編]



イラク戦争が始まった日の翌朝、ミスチルの桜井くんからの一通のメールが流れ、「平和との向き合い方」を考えていた著者たちの心に留まり1冊の本となりました。生活の中にある「戦争を支持するしくみ」の断

片をみつけ、オセロのようにひとつひとつ裏返していくこと。長く続く生活の中からの「非戦」が、この本のテーマとなっています。

この12月7日には小泉さんが自衛隊のイラク派遣を決定しました。戦争放棄をうたった憲法を持つこの国がどんどん変っていってしまうようです。桜井くんのメールを冒頭に置いたこの本はかれの名前があることによって、若い人たちが手にする機会が増えただろうと思います。若くはないけれどわたしも確実にそのひとりなわけで(^_^;)世の中が新しい人たちの意識によってよい方向に動いてくれることを願っています。



ユング自伝 付録V 死者への七つの語らい (1916)

「ユング自伝」は全然読めません。こういう本をすいすい読める頭を持った人がうらやましい。これは「付録のV」。20ページくらいです。シュタイナー講義に通っている友人が「先生が面白いと言っていた」とコピーしてくれたもの。面白いけど難しい。難しいけど面白い。プロレマ、クレアツール、無、充滿、相殺、対立、区別・・・両極・・・逆説・・・人間の心は広く深く限りない。自分自身でさえ知らない内的世界を持っている。そう思わせるところがわたしにとってのユングの魅力か。いつかちゃんと感想が書けるようになりたい・・・



さてわたしもうさおに倣って由佳ちゃんご指摘の観音様を調べてみました。

十一面観音菩薩はサンスクリット語で、「エーカーダシャムカ」(十一の顔を持つもの)という。

本面-----菩薩本来の慈悲の相

頂上仏面-----究極の理想としての悟りの相

化仏(阿弥陀)---十一面観音が阿弥陀仏の慈悲の心を実践する菩薩であることを示す

菩薩面-----善い衆生を見て、慈悲の心をもって樂を施す

瞋怒面-----悪い衆生を見て、怒りをもって仏道に入らせる

牙上出面-----清らかな行いの者を見て、讃嘆して仏道を勧める

大笑面-----善悪雑穢の者を見て、悪を改め、仏道に導く

なんかいいじゃん。気に入りました。ついでに、

国宝十一面観音菩薩像は全国で6体、すべて近畿地方に分布している。

奈良県--聖林寺(桜井市) 法華寺(奈良市法華寺町) 室生寺(宇陀郡室生村)
京都府--観音寺(綴喜郡田辺町) 大阪府--道明寺(藤井寺市) 滋賀県--渡岸寺(伊香郡高月町)



わたしはきっとね、奈良県は桜井の仏像の化身なんだよ。調べてみるもんだ。

うれしいね(^_^♪